



株式会社フォトライフ提供



会報 第37号

● 発行者 ●
 栃木県立真岡北陵
 高等学校同窓会
 ● 編集 ●
 同上編集委員会
 ● 印刷所 ●
 (株) 杉山印刷

菊地恒三郎さんを悼む



同窓会副会長
 菅谷善六

新年明けましておめでとうございませう。会員の皆様には、清々しい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げますとともに、旧年に増して輝かしい年でありますことをご祈念申し上げます。

昨年は多くの国の指導者の交代があり、日本も三年三月月続いた民主党政権から自民・公明両政党が担うことになり、安部内閣が誕生いたしました。経済不況からの脱却、社会制度の充実等々が望まれるところであります。前本校同窓会長菊地恒三郎さんが、去る十二月二十七日病氣のため、さくら市内の病院で逝去されました。

真岡市社会教育課長兼公民館長として、生涯学習の推進と公民館活動の充実に努められました。昭和五十三年、収入役に就任、五十六年真岡市長に就任され、平成十三年退任するまでの五期二十年間にわたり、市政発展のため尽力されました。特に教育に関する分野では、自然教育センター等教育施設の充実に心血を注がれました。

今年度の活動から



校長
 国府田健二

同窓会の皆様には、置かれましたは日頃より様々なご支援、ご協力をいただき感謝いたします。昨年の会報で、「震災からの完全復旧に向けて施設、設備の工事が動き出しているところだ」と報告致しました。現在、最後の工事として、耐震を

兼ねた第一体育館の補修が一月下旬に終了し、すべての施設設備が元通りになります。生徒達は今年も生き生きと活動しています。農業機械科では、溶接コンクールにおいて関東甲信越大会二位、今年度も県大会で一位と三位になり、

注がれました。菊池恒三郎さんは、大倉一郎同窓会長の後を受けて、昭和六十三年に同窓会長に就任され、平成十三年まで十四年にわたって本校発展のために尽力されました。

当時の県教育委員会で「県立高等学校整備委員会専門部会」が設置され、自営学科の縮小、生活科の縮小、併設農業科の廃止が検討されておりました。本校でも昭和六十一年に「学科再編検討委員会」を組織し、「時代に即応した特色ある学校づくり」を目標とし、検討が進められ、昭和六十三年には学科再編の方針が決まり、農業科、園芸科、畜産科を改編して農業経営科(二クラス)、農業機械科(一クラス)を新設、既存の食品科学科(一クラス)、生活科学科(二クラス)、四学科六学級として平成二年四月からスタートしました。

本校農場の建物、農場管理室、作物収納舎、農機具舎、豚舎、鶏舎、食品化学実習実験棟等四棟は、昭和三十年初期から四十年初期に建てられた木造建築で老朽化が進んでいました。これらの建物は現在のテック通りの東側にあり、生徒の行き来するのにも危険で実習指導にも不便を極めていました。学科再編を機にこの建物群を農場中央部に移築し、農場機能の効率化と学習環境の整備を図り、魅力ある農業教育を実現するため、平成元年に「真岡農業高等学校農場長期整備計画」を県教育委員会に申請しました。

老朽化した四十棟の建物を移築するための建物敷地の土盛整地工事、更には、農場に隣接する民間の農地の買収、農場用建物棟の建築費は莫大な経費が必要になりました。

本校以外の高等学校でも整備計画を要望されておりました。県当局も財政が逼迫している時期でもあり、私達の要望を聞き入れることは困難な情勢でありました。真岡市長でもあり、同窓会長でありました、菊池恒三郎さんに学校の事情をお話し申し上げ、お力添えをお願いいたしましたところ「母校発展のために力にならましよう」と快諾を得ることができました。

同窓会

青年部長挨拶



平成17年度卒業
 野原理恵子

平成二十五年四月から青年部長に就任した野原理恵子です。

本年度活動におきましては、同窓会役員の方、先生方、また同窓生の皆様には、日頃より温かいご指導、ご支援を頂きまして厚く御礼申し上げます。

青年部の活動内容は、役員会(親睦会)を中心に役員との交流を深めつつ学校行事に参加することです。

現在、様々な行事に参加するにあたり、人数が減少する傾向にあり、実施が困難になっております。また、青年部も後継者不足の為、悩んでいます。興味のある方は、先生に聞いてください。

最後になりますが、青年部として、限られた活動となると思っております。同窓会の皆様、先生方には、今後とも協力のほどお願い申し上げます。



益子町議会議長就任

昭和三十一年度卒業
小杉 守利

真岡農業高等学校を卒業したのは、昭和四十年三月で、約半世紀が経過した所です。生徒会会長として、生徒会運営に携って来ました。卒業後、頑張って農業を営んできた所です。当時は同じ年頃の仲間が多くて、4Hクラブ等も盛んで、県の役員をさせて頂き、楽しい思い出です。卒業時に後継者育成資金を借りて、養鶏(採卵)二〇〇羽を始めました。当時は他の物価の割りに、卵価が良かった記憶があります。米麦と煙草と養鶏を軸に経営をしてきましたが、昭和五十七年に養鶏を止め、煙草の規模を拡大して、米麦、煙草を経営の

市貝町議会議長に就任して

昭和三十一年度卒業
飯田 資雄

私は昭和三十一年に県立真岡農業高等学校(旧)を卒業しました。その後、栃木県農業講習所(現栃木県農業大学校)へ進学しました。農業改良普及員の資格を取得しましたが、現在と同様就職難の時代で採用はなかったのです。市貝町の市羽農業協同組合で農業指導員が空席となっていましたので、採用され六か月お世話になりました。その後、芳賀町で農業構造改善事業が導入するため、農業技術者の

に遮断でき、休耕地の麦の後に大豆を栽培しました。今は変わりに、飼料稲を麦の後に20ha栽培しています。設立して十年が経過し順調に運営しています。二期目も当選させて頂き、副議長を拝命しました。三期目も当選させて頂き、現在、益子町議会議長を拝命させて頂いておられます。私の議員人生は集落営農組合の組合長人生は同時に進行してあります。真農高で培われた精神は、議員生活の中にも生かされていくと確信をされている所です。私は一期一会という言葉が好きです。今は過去になり、二度と戻ることはありません。今を大事に大切に生きて頂きたいと思っております。本校の益々の発展と皆様の更なるご活躍を願っております。

募集があり、採用されました。経済課を振り出しに、出納室長・水道課長・福祉課長・農業委員会事務局長・社会教育課長・企画課長・建設課長で退職。特に芳賀工業団地の買収や芳賀高根沢工業団地(本田技研研究所)の用地買収や企業誘致などに尽力したため、芳賀工業団地の事務局長を拝命する。その後、平成の大合併が叫ばれ、先輩から今までの経験を生かして、議員として、働いてはと誘い



PTA会長として

鈴木 康弘

平成二十四年度PTA会長を仰せつかりました。田野支部の鈴木康弘です。私は本校の卒業生ではございませんが、同窓会の皆様に御指導いただきながら精一杯頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。同窓会の皆様には、日頃より本校生徒のためPTA活動に励んでいただき、ご支援、ご協力を頂き深く感謝申し上げます。昨今の生徒たちを取り巻く社会環境は大変厳しく様々な情報が簡単に入手できる一方、有害な情報の氾濫など生徒たちにも大きな影響を及ぼしています。さらに地域や家庭内でのコミュニケーションが希薄になつてきているのも事実です。今後この問題は深刻さを増していくのではないのでしょうか。今ほど子どもを一人の自立した大人に育て上げるのが難しい時代はあります。特に思春期以後は、子供が自立に向う時期です。この難しい時代に、社会へ出て立ちをすする為の準備をす

映させながら、農・工・商の調和のとれたまちづくりにつとめています。現在、議長としてその役割をまっとうできます。とはひとえにわが母校で学んだ経験が身となり、今があると私は常に胸に刻んでおります。



新採当時の思い出

高島 博

本校に着任したのは、昭和二十七年四月、二十三歳の春だった。当時は食糧難で、農家も学校も増産するのに、肥料が不足して困っていた時でもあった。丁度文部省から実験学校としての指導をうけ、「総合農業の在り方」と題して研究がはじまり、職員、生徒が一丸となりピリピリとした雰囲気一杯だった。次年度の秋には全国へ発表する予定で、夜遅くまで全職員で原稿

私が学生だった昭和四十一年頃、農家の長男は皆、農業後継者として、農業高校へ行くものだと、先輩や、親から勧めがありました。その背景には、父の時代、戦争の経験をして生きて帰った喜びと食料不足と食料生産という大儀があったと推察しています。しかし高度経済成長期となり農業を離れていく友人もたくさんいました。農業より遥かに収入もあり農業では食べられない時代になりました。そこで私は農業だけで食べていくことは出来ないかと思ひ一般サラリーマン並みの収入が得られる農業がしたい

が完成すると第三校舎さらに講堂兼体育館と、次々に行う資金集めには苦労したものである。農場の施設設備も同様で、畜舎の増改築は、農場会計の利益があればあるだけ立派なものを入れることができたのである。トラクタもオート三輪車も欲しかったから、つい生徒には無理な実習を強制しなければならぬこともあった。校長には個人的にご指導頂いたことが多かった。「石の上にも三年」というから三年間は頑張れよと言われ、ある時は校長室に呼ばれたので、何か注意されるのかと思

作ったものは自分で値を決めて売るといふやり方で、現状の姿が出来あがったように思います。振り返ってみると、作物を作るより販売する事の方がはるかに難しく、うまく出来るものではなく、うまく出来なかったが、一つの契約が取れた時は最高の喜びでした。現在、農業に対する考え方も変わり、生産から加工販売まで行なわれていきます。私の行って来た農業が認められ、とちぎ元氣大賞、全国農業コンクールなど平成二十二年から二十四年にかけて農林水産大臣賞を頂き、平成二十四年十一月二十三日に行われた農林水産祭において内閣総理大臣賞を受賞しました。受賞については私の農業に対する考え方が認められ自信が付きま





梶木 貴浩
昭和六十年度卒業
田野支部 小 玉 貴 浩

栃木県農業士になって

私が、本校を卒業し宇都宮農業高等学校農業特別専攻科に進学し卒業後就職してから、いつの間にか二十七年間が経ち、時の流れの速さを感じます。就農当時は、葉タバコ栽培を中心に水稲栽培する益子町において標準的な経営を行っていました。私が、就農して年々たばこの面積が増え、たばこ栽培が連作になり病気の発生が多くなりました。それを解消するために輪作体系をとるために麦の作付けを始めました。就農して数年で、水田・麦の作業受委託が、地域の方々に頼まれ始め面積も徐々に増えはじめました。そこで、平成五年にJAカントリーエレベーターが作られたことをきっかけに地域九人で、



小林 文夫
昭和四十七年度卒業

優良同窓生表彰を受けて

平成二十四年度の同窓会総会において、「農林水産大臣賞」受賞の先輩方並びに北陵高校の「優良同窓生」の表彰を受け光栄の至りであります。我が家の栽培作物は、主に水稲二、五haと玉ねぎ三haです。労働力は、私と妻二人ですが、玉ねぎの定植と収穫時には、七、八名の臨時雇用をしています。定植は、四条植の移植



小 埜 明
平成二十一年度 生物生産科卒業

アメリカ研修を終えて

私は、市貝町で水稲と種もみ生産と転作利用系の露地栽培をしている専業農家です。転作利用型の露地野菜はアスパラガスを栽培しています。面積は水田580aアスパラガスで使用しているハウス30aです。真岡北陵高校卒業後は栃木県農業大学校総合農学科作物コースに進学しました。農大卒業後はもつと農業が学びたくアメリカ・コンピネーションというプログラムに参加して平成二十三年三月二十四日に渡米して平成二十四年九月十一日に帰国しました。このプログラムに参加した理由は、我が家は専業農家でもあり将来的には栽培面積を拡大して水稲とアスパラガス以外の作物を導入していきたいと思いつたことと感謝したいと思います。



最後に、我が家では、父母、自分、そして長男、長女と本校の卒業生であることに感謝したいと思います。肥盤を作り、モミガラを母材とした大量の堆肥を自家製造して、10a当り3t以上投入し化学肥料を減らし、病害虫を予防して「味のよい玉ねぎ」を生産して消費者の健康に役立てたいと思っています。又、数年前より種苗会社の依頼を受け新品種の試験栽培も実施しています。農業振興事務所や関東農政局の収穫調査にも数年協力しました。



町田 則人
三年一組 齊藤 菖

東関東コンクールに出場して

私達吹奏楽部は、平成二十四年九月十五日に横須賀で行われた、東関東コンクールに出場しました。この東関東大会に出場するためには、七月に行われる県の予選大会で金賞をいただき、さらに一週間後の八月に金賞校が集まって行われる県代表選考会で選ばなければなりません。他高のレベルも高く、県代表に選ばれるのはほんの一握りなので、春からたくさん練習を重ねました。吹奏楽コンクールは、自由曲を一曲決め、その曲を春から夏にかけて練習します。今回私たちは「スプレッド・ブルリア」を選びました。昨年の七月の求人開始からあわただしい日々が始まりました。本校では百人近くが就職を希望しています。お隣の工業高校も同じくらい求職者がいますが、ほとんど男子です。事情は異なりますが、一番の悩みの種は女子の求人です。特に製造業での女子求人が足りません。以前に在りました検査業務も今はマシーンにとって代わり、勤務形態の制約などから男子を求める傾向があります。今では女子の社会進出が当たり前ものとなって

はとても小さい農場でした。従業員は農場主と農場主のお姉さんだけの労働力でした。実習内容は主にトマトとキュウリの管理と収穫、月・水・金はスパーやレストランに出荷するための収穫で、午前中出荷・調整を行います。金曜日は次の土曜日にファーズマーケット（イベント）が行われるので、一日その準備になります。火・木・土の仕事は農場主が支持するのではなく私達が予定を決めて仕事をすることになっています。配属された農家さんでは、バックシステムという水耕栽培でトマトとキュウリを栽培していました。ハウイの土は火山灰が降り積もったもので、その土を使つて野菜を栽培することができません。それなので土をお店で買わなければいけないのです。やはり農業はその土地にあった気候と土地に左右されているのだと考えさせられました。私は、この一年半で学んだことが二つあります。アメリカと言っても大規模農家だけではなく家族経営型の農業があることと私が仕事の予定を作りやすい形態をしているということです。将来は、両親と一緒に農業をやっていくつもりです。これからは父が不在の時には、私が仕事を考えて行動しなければなりません。アメリカで学んだことを今後の農業に生かしていきたいです。

第67回国民体育大会ぎふ国体

三年二組 小林 郁 弥

私は、今年の九月三十日から十月三日にかけて、岐阜県白川町で行われた第67回国民体育大会ぎふ清流国体ライフル射撃競技に、エア・ライフル少年男子立射60発競技に出場し、大会新記録の590点で優勝することができました。

この大会は、都道府県の代表選手が各ブロックの予選会を勝ち抜き出場する大会で、私は「栃木県代表として絶対優勝する」という目標を決めていました。しかし、この目標を掲げてから中々点数が伸びず焦りがありました。顧問の先生に解決策を聞いたり、工夫を凝らしながら練習に取り組みました。国体前に全国大会の上位30位以内で出場できるJOC大会に出場することができ、この大会で試合感覚を取り戻そうと考えていました。試合は、不安と緊張が押し寄せ、撃ち始めた試験射は当りませんでした。切り替えを意識し、本射で無我夢中で射撃を行い、予選1位で通過することができました。決勝戦では2位の点数差が開いていたため、安心して自分の射撃をすることができました。この経験で改めて試合の感覚や勝ち方、自信を取り戻すことができ、国体へ臨む気持ちが整いました。そして、こ



の感覚を忘れないよう、国体開催までの間にファイナルや気持ちの切り替えなどの練習に取り組みました。そして、国体が開催され、会場はたくさんのお客様が集まり、国体ムード一色になっていました。用具検査並びに公開練習を終え、私は予選2射群目の順番だったので1射群目が終了のを待っていました。待つている間は、緊張や不安が治まりませんでした。しかし、1射群目の終了する直前に電圧の低下による機材のトラブルがあり、復旧するまでに1時間程度かかりました。室内での競技ではありましたが、このようなアクシデントが起こってしまった。この時間を利用し、緊張や不安を和らげることができました。試合が始まり撃ち始めると練習で行っていた気持ちの切り替えと緊張が良い集中力とな

なり、自分の思うような射撃をすることができました。その結果、全シリーズを撃ち終わり得点が590点の暫定1位で予選通過をしました。「次は決勝だ」とウォーミングアップをしていると、国体運営事務局より臨時連絡があり、悪天候のため決勝戦を実施しないとのことでした。この時点で暫定順位から優勝の2文字と確定しました。個人としては、初めての大会新記録での優勝だったのでとても嬉しかったです。高校三年間の栃木県代表としての最後の大会は、優勝という輝かしい結果で幕を閉じることができた良かったです。このような結果を残すことができたのは、部の仲間や支援があったからこそ成績だと思っています。また、私は卒業後も射撃を続けるため、大学に進学し、高校で経験したことや得たことを生かし、大学でも良い成績を残せるように頑張っていきたいと思っています。

生徒会活動報告書

顧問 中島 篤 志

今年度の主な取り組みについて報告いたします。四月には毎年恒例となりました益子特別支援学校との交流会を行いました。六つのグループに別れ、農場見学やいちごの収穫などの農業体験を行いました。昼には前もって準備していた手作りのカレーをみんなで食べ、最後には、益子特別支援学校から「益子ソーラン」の披露もあり、お互い楽しく過ごすことができました。七月には「ふれあい活

生徒会会長として一年間を振り返って

三年四組 関本 誠

私が生徒会長として活動して早一年が経ちました。昨年度は、副会長として前生徒会長である田村先輩のもと生徒会の行事に関わってまいりました。私が会長となり、先輩のように学校をまとめることが出来るかはじめは不安でいっぱいでしたが、諸先生方、生徒会役員の皆様方の力を借りながらこの一年間一生懸命頑張ってきました。

最初の頃は、生徒会長として積極的に意見をすることが出来ず、話し合いでも緊張と不安の連続で自分の力の無さに落ち込むこともありましたが、しかし、

動高生が集い」に参加し、各学校の発表を見たり、シンポジウムに参加したりしました。活発な意見交換が行われる中で、本校生徒会メンバーも自分達の考えなどを堂々と発表することができ、大変有意義な一日となりました。十月二十八日、二十九日には、北陵祭が行われました。今年度は体育館の改修工事の為に様々な制約があり、新たに変わらなければならないことが多々ある中で、学校祭と

みなさんがみんな最初からうまくできるわけではなく、前向きに考え、自分の出来る限りの努力をしました。そして、心も大きく変化しました。今までの場その場でしか行動出来なかった私ですが自分自信が生徒の中心となり、学校を盛り上げたいという責任感が生まれ、そのための、新しい役員となった二年生を積極的に引っぱり、協力し合うことが出来たと思います。多くの学校行事についても、何度も話し合いをして、生徒会全員からの意

に携わるなかで、自分達の課題を見つけ、そして新たな目標を掲げて活動することは、役員一人一人の成長のための絶対の機会でもあります。十二月にはこれまでの旧役員から新役員へと引き継がれ、新メンバーとして一年生を迎えました。役員として学校を盛り上げていきたいと思いを抱いているものばかりと確信しております。来年度も、会長を中心に活発な生徒会活動ができるよう指導して参りたいと思っております。どうかよろしくお願いたします。

なりました。今回も生徒会役員、実行委員が中心となり、自分達でさまざまな目標を立て、考えをまとめ運営にあたりました。また放課後遅くまで居残って看板を作成したり打ち合わせを何度も行うなど、前日まで会長を中心に入念に準備を進めてきました。その甲斐もあり、二日間を大いに盛り上げる事ができました。今回はまさに生徒が主体となり作り上げた学校祭となりました。

今年度もさまざまな場面でも多くの方から指導、助言いただき、大変感謝しております。生徒会役員としてさまざまな行事

全国競技大会に出場して

三年一組 若目田 春 美

私は今回、十一月に岡山県で行われた第二十二回全国産業教育フェア岡山大会、第一回フラワーアレンジメントコンテストに出場してきました。県大会で県代表に選ばれた高校生が、フラワーデザインに関する技術と感性を育み、二十一世紀を担うスペシャリストとしての創造性・芸術性を高めることを目的として開催された大会です。前年度に行われた鹿児島大会では自分の納得のいく作品を作ることが出来ず悔しい思いをしました。今回はその様な思いをせず、精一杯自分の満足のいく作品を作るという目標をもち、一年間フラワーデザインの知識や技術を身につけ、花の勉強もたくさんしました。農業クラブ連盟主催の県大会で、最優秀賞を受賞したことで自信をもち全国大会に向けて練習を始めました。今回の大会は前年度の大会とは、実施規則が大きく

のようになればいいか、責任感の大切さなど様々なことを学ぶことが出来ました。今後は、新生徒会長を中心に真岡北陵高校の新たな発展と成功を祈念しております。一年間本当にありがとうございました。



く違い、花器、花材が当日発表という大会に出そうなる花材を知らべアレンジによく使われる基本的な花材のバラ・ユリ・ガーベラなどを使ったデザインを考え日々練習を大会に臨みましました。当日は全国大会ということで緊張していましたが、練習で使用した花材などがあり安心して落ち着きながら私が考えた「感謝」のテーマのとおり今まで支えてくれた方々に感謝の気持ちを花に込め無事に自分の納得のいく作品を作ることができました。望んでいた結果とはなりませんでしたが、高校生活最後にこの様な大きな大会に出場することができ本当に良かったです。フラワーアレンジメントを通して私は、夢を見つけないこともできず、今後はこの夢を叶えられるように社会人として日々頑張っていきたいです。

農業クラブ活動報告

顧問 有村 君子

今年の農業クラブ活動は、各種競技・発表大会への出場や、北陵朝市の継続などを行ってきました。校内行事では、昨年度に引き続き震災の影響により、本校第一体育館が使用できないことから、校内各種競技会等の運営に苦勞することが多々ありました。しかし、クラブ員の協力もあり無事終えることができました。

栃木県学校農業クラブ連盟大会は、各種発表大会および式典会場を栃木市文化会館で行い、各校とも白熱した競技が行われました。本校からは、

農業クラブ会長として

三年二組 板橋 孝典

私が会長になってから一年が経ちました。最初はこの大役を果たすことが出来るのかと不安でしたが、早いものです。今ではとても楽しく活動出来るのですが、自分の中で力に変えていることに気がきます。

平成二十四年度の農業クラブ活動は、新役員研修会という鹿沼市自然体験交流センターにて一泊二日にて行われた行事から始まり、本校生徒や初めて会う他校の生徒達と交流を深め、今後の役員研修会で行う会議

の計四名で臨みました。日頃の勉強の成果を発揮し、農業鑑定競技において、農業コースに出場した生物生産科三年の今村賢也くんと、農業機械コースに出場した農業機械科三年の野沢俊介くんの二名が優秀賞に入ることができました。今村君は二年連続の入賞となりました。また、クラブ員代表者会議では、全国のクラブ員と活発な意見を交換し、充実した全国大会参加となりました。

十一月には、本校農場の水田を使用して収穫感謝祭を実施しました。今年も畜産部のブタの豚肉と、農場で収穫した野菜・米を使ってカレーライスを作り、一年の収穫を感謝しておいしく頂きました。

た。本校からは生物生産科三年の高橋麻美さんが優秀賞を受賞しました。夏に行われたフワワーアレンジメント競技会では、生物生産科三年の若目田春美さんが最優秀賞を受賞し、十一月に岡山県で行われた第二十二回全国産業教育フェア岡山大会フワワーアレンジメントコンテストに県代表として出場しました。

農業情報処理競技会では、本校から三名が出場し、生物生産科三年の仙齊有美さんが優秀賞を受賞しました。

十月には第六十三回日本学校農業クラブ全国大会が長野県で行われました。本校からは、農業鑑定競技会三名、クラブ員代表者会議参加生徒一名

の流れを学びました。昨年に引き続き、今年も北陵高が家畜審査競技会運営事務局になったこともあり、役員や先生方も多忙だったと思います。さらに今年は、県大会の意見発表（環境・文化生活）の運営担当となりました。経験のない行事の運営だったので、会場の準備や進行のやり方などに苦勞しました。しかし、役員や顧問の先生方と協力しながら何事もなく運営することができました。無事に成功したのは役員皆の努力があった

からだと思います。役員の方には大変感謝しています。今年の朝市では、九月には本校で収穫されたブドウやナシなどの果物中心に販売され、たくさんのお客様が来校してくださいました。

十一月に行われた収穫感謝祭は私が会長として最後の行事で、校内の水田で行われました。本校で収穫した米や豚肉、野菜を使いみんなで楽しく、おいしいご飯とカレーを作っていました。

今年一年間を振り返ってみると、会長になってから引退するまで、役員や顧問の先生方に支えられてきました。さらに今まで経験のないことが多

た。また、毎年恒例となつたカレーコンテストを実施。食品科学科三年生のクラスが最優秀賞に輝きました。

一月に入り、三年生の課題研究発表会も行われ、無事一年間の大きな行事を終わらせることができました。今年一年、さまざまな活動を行い、生徒にとつて充実した活動になったと思います。大会成績では満足とは言えないものでしたが、次年度以降の課題として取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、今後とも本校農業クラブ活動により一層のご支援をお願い申し上げます。

学校家庭クラブは、家庭科を学習する高校生を会員とし、家庭科の学習を通して、学校内や地域の生活に目を向け、問題を発見し、その解決の方法を探り、生活の改善、向上を目指す実践的な学習活動をおこなう組織です。「創造・愛情・奉仕・勤労」の精神を柱とし、本校では教養福祉科が福祉教育の中で家庭クラブ活動を展開しているところに特色があります。

本校の家庭クラブは、奉仕活動、交流活動、研究活動に力を入れており、家庭クラブ役員を中心とし、充実した活動をおこなっています。

奉仕活動としてペットボトルキャップ回収を始

ことをしていますが、とても参考になりました。また、広い会場でもとまってしまうのではなく、小さな会場で複数のグループに分かれて議論し、それを発表するという方式だったので、沢山のひとと話し、お互いの高校のことを話したり、質問したりすることができてとても充実した時間を過ごすことができました。

会議中に、私はグループ内の司会を務めさせていただきました。私は人前に立ち、何かをするのがどうしても苦手です、小さい声で話してしまっていたことができました。

交流活動では、調理講習会をおこないました。役員の方の提案により、冷凍パイシートを使って簡単にできるチョコパイ、そしてデコレーションケーキを作りました。調理、会食をしながら、学年の枠を超えて交流をおこなうことができ、有意義なひとときとなりました。

研究活動では、十二月に教育会館でおこなわれた、栃木県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会において、「高齢者の生活の質を高めるために、明るい介護に向けて」テーマのもと、研究発表大会をおこないました。また、校内意見発表会では各学年の代表者による意見発表、二年生のエブ

全ク全国大会

代表者会議に参加して

二年一組 高野澤 俊介

私は十月二十四日から二十五日にかけて行われた、農業クラブ全国大会のクラブ員代表者会議に、本校の代表として参加しました。私は一年間農業クラブで活動し、今年度は会長という責任のある仕事をします。今回の会議に参加して、全国の学校の農業クラブの意識の高さを実感しました。

私の参加したクラブ員代表者会議では、第一から

家庭クラブ活動報告

顧問 沼田 美季

第三分科会であり、私は第一分科会に参加しました。議題は、「農業クラブを地域の方々に知ってもらう段階的な活動にはどのようなものがあるか」というものでした。

発表校の、三重県立四日市農芸高校では、朝市や保育園との交流、里山公園作りなど、非常に様々な方向で地域へ進出していました。本校でも朝市や花壇作りなど、様々な

ことをしていますが、とても参考になりました。また、広い会場でもとまってしまうのではなく、小さな会場で複数のグループに分かれて議論し、それを発表するという方式だったので、沢山のひとと話し、お互いの高校のことを話したり、質問したりすることができてとても充実した時間を過ごすことができました。

会議中に、私はグループ内の司会を務めさせていただきました。私は人前に立ち、何かをするのがどうしても苦手です、小さい声で話してしまっていたことができました。

交流活動では、調理講習会をおこないました。役員の方の提案により、冷凍パイシートを使って簡単にできるチョコパイ、そしてデコレーションケーキを作りました。調理、会食をしながら、学年の枠を超えて交流をおこなうことができ、有意義なひとときとなりました。

研究活動では、十二月に教育会館でおこなわれた、栃木県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会において、「高齢者の生活の質を高めるために、明るい介護に向けて」テーマのもと、研究発表大会をおこないました。また、校内意見発表会では各学年の代表者による意見発表、二年生のエブ

くせがあるのですが、今回の会議では、グループ内の会議の進行役、そして前に出て発表する役の二つを体験しました。農家の会長になれば、当然人前に立つて何かをすることも多いと思います。元々あがり症の自分を変えるのにもよい機会でした。

今回、クラブ員代表者会議に参加して、私は様々な体験して、たくさんの知識を吸収することができました。体験したことを忘れずに、これからの学校生活、農ク活動に励んでいきたいと思っています。

ロンシアターの発表などがおこなわれ、他者の意見や授業の成果を知るよい機会となりました。

家庭クラブ活動を通して「思いやり」そして「こころ」のつながりの大切さに気が付き、豊かな心が育まれることは大変意義のあることだと思います。

最後になりましたが、今後の家庭クラブ員の益々の活躍を期待しています。



家庭クラブ活動を通して

三年五組 佐藤 由梨

私が家庭クラブ会長を務めて、早一年が経ちました。会長という立場を務め、クラブ役員をまとめたり、クラブ員や先生方の前で発表したりと普段の生活の中で経験できないことを、家庭クラブという活動を通して経験することができました。活動の中で特に思い出となっているのは、「ベクトルキャップ回収」です。この活動は、ベクトルキャップを集め、それをワクチン寄贈団体に寄付し、発展途上国へ

計画良く集まる機会を設け、少しでも多くのキャップを寄贈団体に寄付したかったです。

ワクチンとして届けるというものです。前年度から始まった活動で、初めは福祉科内での活動でしたが、今年度は、全先生、全生徒の皆さんへと活動を広げることができました。活動範囲が広がったことにより、前年度より多くのキャップが回収されているように思います。

家庭やクラブ役員で集まる機会をなかなか設けられず、キャップについているシールを剥がす作業が、まだ終わっていません。

教養福祉科近況

科長 小林 浩子

教養福祉科は、平成二十一年度より、国家資格である「介護福祉士」の養成校となり、さらに専門性の高い知識と技術が求められるようになった。高校でありながら、大学短大、専門学校と同等の教育内容や授業時間数であり、五十二単位一八二〇時間を履修しなければならぬ。平成二十五年からは一単位増加の一八五五時間になる。学校行事の多い中、授業時間の確保がたいへん難しい。今年度からは、三年生は月曜日に七時限目を設け、授業時間数の確保に努めている。さらに夏休み、冬休み中の補習授業を

実施している。このような中で、生徒達は部活動にも積極的に取り組み、両立させている姿は、頼もしい限りである。主な授業内容の中に、「介護実習」があるが、これはすべて校外での実習になる。一年生ではデイサービスセンター十一日間、グループホーム二日間合計十三日間。二年生では、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設で十三日間、障害者施設三日間、訪問介護実習一日間合計十七日間。三年生では、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設で二十五日間。三年間で五十五日間の現場実習となり、重



くを受験生を目的の当りにし、興奮と緊張はピークに達する。しかし、平常心を保ち、三年間をこの一日にかける重圧はたいへんな事である。全国平均の合格率は五十%前後であるが、本校は平成二十二年九十五%、昨年二十三年度は一〇〇%であった。生徒達の

を生かしていきたいです。そして、ベクトルキャップ回収に協力してください。先生方、生徒の皆さん、ご協力ありがとうございます。少いながらも、発展途上国の方々の力になればと思っております。今後ともご協力よろしくお願いたします。先生方をはじめ、家庭クラブ役員、家庭クラブの皆さん、温かいご支援ありがとうございます。今後の家庭クラブ活動が、より一層、真岡北陵高校の発展へと結びつきますよう祈念しております。短い間でしたがありがとうございます。ありがとうございました。

日々の努力と家族、地域の方々等多くの方に支えられて達成できたと感じている。卒業時には、最終的な目標である「介護福祉士」の国家試験に挑戦する。前日に東京のホテルに泊まり、当日現地集合。多くの受験生を目的の当りにし、興奮と緊張はピークに達する。しかし、平常心を保ち、三年間をこの一日にかける重圧はたいへんな事である。全国平均の合格率は五十%前後であるが、本校は平成二十二年九十五%、昨年二十三年度は一〇〇%であった。生徒達の

総合ビジネス科近況

科長 上久保 貴見

総合ビジネス科では、ビジネスに関する各分野について基礎的、基本的な知識と技術を習得し、ビジネスにかかわる業務に従事する者及び経営者として必要な能力と態度を育てることを目標としています。

授業で学んだ内容をさらに理解を深めるために、今年度は、三年生が産業教育機関見学として、商品流通の重要な役割を果たしている東京都中央卸売市場大田市場を見学しました。

TBC学院宇都宮校では、興味・関心のある学科に分かれて模擬授業を

農業機械科近況

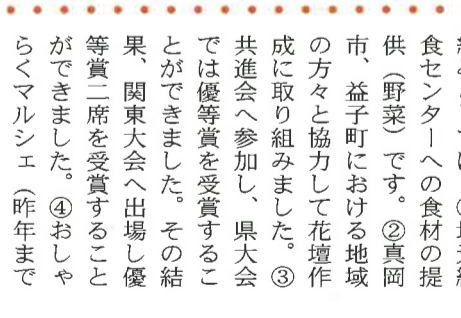
科長 田村 勇治

農業機械科は、昨年度から県内唯一の学科になり、技術の向上と地域貢献を目標に生徒と共に取り組んできました。

昨年度十一月に行われた「高校生溶接コンクール」で優勝と二位を獲得した三年生の福田和樹と野沢俊介は、四月に行われる関東甲信越大会へ参加することになり、毎日放課後練習を実施した。結果二人とも二位を獲得し、今までの努力の成果を残してくれた。この大会には、今年の県大会に参加したいと希望してきた二年生も見学させた。関東甲信越大会に参加する生徒の技術の高さを実感しつつ、先輩が意地を見せてくれ、本校の技術

の大きさを実感して帰ってきた。

栃木県土木事務所から依頼があった真岡市石島の「二宮遊水地促進事業」に今年も参加した。今年度は、昨年度の1.3haから2.0haと大幅に面積が増えた。また、トラクターによる耕起から種まきまで生徒が行うことになった。本校からトラクターを三台運搬し、本校生徒が播種を予定の2.0haに加え、益子特別支援学校が播種(菜の花) 予定の0.7haも一緒に耕起した。レンゲの播種は昨年度と同様に動力噴霧器を使用して行った。二年生が担当して大がかりな実習体験となったが、学校では経験できない事が出来たと思う。



課題研究では、昨年度製作した「イノシシ捕獲用檻」を山前地区に猟友会の協力のもと設置した。タケノコの出る時期が終わっていたため捕獲まではいかなかったが、すぐ近くまで来た痕跡があり、来年が楽しみである。今年度の製作も終えており、別の場所に設置する予定である。他には「半自動溶断機の製作」「乗用モア用けん引トラクターの製作」「オート3点ヒッチ用アタッチメントの製作」「手動リフターの製作」など農業機械科ならではの研究を行っている。

今年度の特徴ある取り組みとしては、①地元給食センターへの食材の提供(野菜)です。②真岡市、益子町における地域の方々と協力して花壇作成に取り組みました。③共進会へ参加し、県大会では優等賞を受賞することができました。その結果、関東大会へ出場し優等賞二席を受賞することができました。④おしゃらくマルシェ(昨年まで

生物生産科近況

科長 野澤 裕治

生物生産科では農業後継者として必要な農業生物の育成を通して農業に関する基礎知識・技術を身につけることができました。農業経営者としての資質を養うために、バイオテクノロジー・環境制御などの先端技術について学習します。さらに、特色ある活動として地域貢献に取り組んでいます。

授業以外に週一回放課後の課外学習や夏休みを利用しての補習等を実施し、成果をあげています。

今年度は、例年に比べて各種検定一級の合格者が多数でした。生徒達はよく頑張ったと思います。

課題研究では、昨年度製作した「イノシシ捕獲用檻」を山前地区に猟友会の協力のもと設置した。タケノコの出る時期が終わっていたため捕獲まではいかなかったが、すぐ近くまで来た痕跡があり、来年が楽しみである。今年度の製作も終えており、別の場所に設置する予定である。他には「半自動溶断機の製作」「乗用モア用けん引トラクターの製作」「オート3点ヒッチ用アタッチメントの製作」「手動リフターの製作」など農業機械科ならではの研究を行っている。

今年度の特徴ある取り組みとしては、①地元給食センターへの食材の提供(野菜)です。②真岡市、益子町における地域の方々と協力して花壇作成に取り組みました。③共進会へ参加し、県大会では優等賞を受賞することができました。その結果、関東大会へ出場し優等賞二席を受賞することができました。④おしゃらくマルシェ(昨年まで



は、朝市の名称であった。)が八月下旬から十一月下旬にかけて、ふれあいの家において開催されました。農業クラブ役員の生徒が中心となって販売を行いました。大勢のお客様に来ていただき、新鮮で美味しい野菜や果樹、そして綺麗な花に満足していただきました。⑤尊徳さんの田んぼで米作り体験ボランティアは、今年で三年目になりました。今年からはイベント前の会議にも生徒が参加し、積極的に意見を述べる機会をいただきました。特に、イベントの中で食育の提案は大好評でした。⑥十二月二十四日クリスマス・イブに、道の駅のみやにおいて、「いちごシーズン・イン・イベント」が開催されました。真岡木綿でできた着物を着た「おしゃらく娘」による本校のPR活動と食育活動を行いました。⑦近隣の学校や病院等へ、トマト、ダイコン、ハクサイなどの野菜や、ナシ、ブドウといった果樹、シクラメンなどの生産物の販売を行いました。様々な校外での取り組みは、生徒や職員にとって大変勉強になる一方、シビアに評価を受けるところもあります。しかし、地域で認められる生物生産科であるよう、今後も取り組んでいきたいと思

食品科学科近況

科長 大塚 昌 法

食品科学科では、「食品関連企業への従事者を養成する学科」として、今年度も農産物の加工や製造技術及び販売指導を重点目標に取り組んだ。

パン類では、食パン・フランスパン・クロワッサン・メロンパン・クリームパン等を、めん類では、そば・うどん・パスタ・中華めんを、ジャム類では、イチゴジャム・ブルーベリージャムを、加工品では、ベーコン・ウィンナーソーセージの製造を行った。また、スポンジケーキやそれを使ったデコレーション実習も行った。例年、地域の多くの皆様からご利用頂いている味噌も昨年並みの製造で、校内及び北陵



民間講師招聘事業は、TBC調理専門学校宇都宮校の岡本先生及び現役生徒らによる洋食実習の指導を受けた。

各資格取得の指導は、食生活アドバイザー3級、ボイラー取扱技能講習、危険物取扱者資格内種、乙種、ワープロ検定等にチャレンジし、大きな成果を上げた。

農業クラブの活動では、プロジェクト発表で優秀賞、意見発表（文化・生活）で最優秀賞を受賞した。特に意見発表は県代表として関東大会に出場し、優秀賞を受賞した。

今年度の大きな成果としては、学科の生徒の研究活動の場として、食品科学同好会を設立したことである。さっそく生徒は期待に応えてくれ、地産地消をねらいとした食品開発に関する研究活動に取り組み大きな成果を上げた。活動の足跡は、次の通りである。

『MOKA いちごグルメ甲子園』（真岡青年会館・四月）に参加し、グランプリ、準グランプリを受賞した。

続いて、『にのみやいちごまつり』（二宮・五月）には、『いちご飯』の試食会・レシピ配布を行い、大きな反響を得た。

青年会議所からは、『とちぎフォーラムたからいち』（宇都宮番場広場・九月）への出店要請を受け、『いちご飯』の販売・レシピ配布を行った。

ここまでの活動が認められ、興味を持った真岡市農政部、商工観光課、青年会議所、真岡市内飲食業者の方々が集まり、『いちご飯』の試食会が10月に本校製造棟を会場に実施された。

このなかで、商工観光課の全面的なバックアップにより、『とちぎ元氣グルメまつり』へ真岡の中華や『文珍楼』との共同出店が決まった。『とちぎ元氣グルメまつり』は十一月に栃木県民広場（県庁前広場）にて二日間行われたが、終日に渡って長蛇の列となるなど大盛況だった。

さらに、真岡の『大産業祭』では真岡青年会議所の『ストロベリーグラプリ』ブースにて、試食会及びレシピ配布を実施した。朝から生憎の雨模様にも拘らず、長蛇の列ができるなど、地元でも関心が高く、『新しい真岡の郷土料理』として、今後も真岡市商工観光課が全面的に協力する旨のお話を頂き、生徒達も自信を深めている。

現在は、『栃木県産業技術センター』において、いちごのフレーバーの研究活動をしたり、いちごを使った新しい商品の開発への取り組みや芳賀農業振興事務所から『地元芳賀産の食材を使ったソースの開発』の依頼を受けるなど、さらなる研究に意欲を見せている。

第一体育館は昭和四十七年に建築され、約四十年間使用されています。しかし、平成二十三年三月に発生した東日本大地震による被害のため立ち入り禁止となり、授業、学校行事や部活動などに影響を受けました。

この度、改修工事により約二年ぶりに使用再開の運びとなりました。工事期間中は内部の様子は工事関係者以外の目に触れる機会が御座いませんでしたので、御紹介いたします。まず、今回の工事は、

第一体育館の改修工事について

事務より

ア. 耐震改修工事
イ. 災害復旧工事
ウ. 大規模改修工事
エ. 長寿命化工事

①は改修工事前・後の床面です。これまで部分的に床板を修理しながら使用していましたが、一部には水平を保っていない事が認められたため、床下から床板まで改修しました。

②は八月下旬頃、床下改修中の作業風景です。第一体育館の床下は土を締め固めた上にコンクリート製の「束」を立てていました。③の地面の窪みが「束」の跡です。④ではステージ、西壁、天井も撤去された、普段見ることの出来ない風景です。

⑤は十一月上旬頃のステージ付近の写真です。現在は鉄筋コンクリートを水平に施工し、金属製の「束」を立て、その上に「大引・根太」や構造が見て取れます。

なお、第二体育館も同様の構造です。

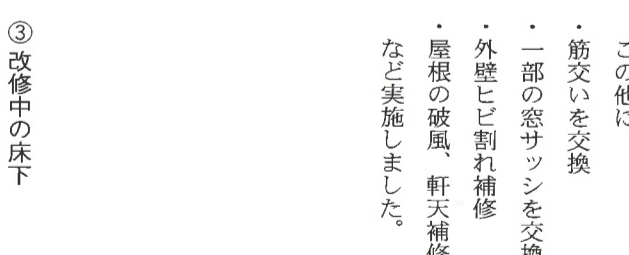
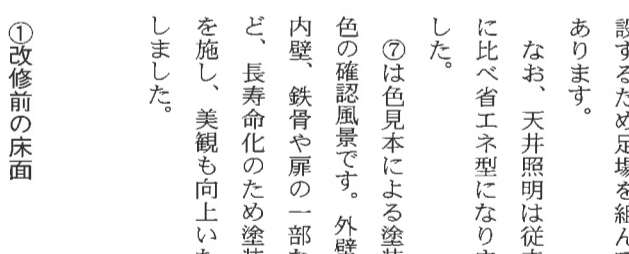
⑥は十二月上旬の様子です。天井の照明器具交換、落下防止ネットを新

設するため足場を組んでいます。なお、天井照明は従来に比べ省エネ型になりました。

⑦は色見本による塗装色の確認風景です。外壁、内壁、鉄骨や扉の一部など、長寿命化のため塗装を施し、美観も向上いたしました。

この他に

- ・筋交いを交換
- ・一部の窓サッシを交換
- ・外壁ヒビ割れ補修
- ・屋根の破風、軒天補修など実施しました。



② 改修後の床面

① 改修前の床面

④ 改修中のステージ

③ 改修中の床下

⑦ 塗装用色見本

⑥ 高所作業用足場等

⑤ 改修中のステージ

平成24年度卒業生の進路状況

在籍数	学 科 名	男子	女子	合計
	生物生産科	13	24	37
	農業機械科	31	1	32
	食品科学科	6	32	38
	総合ビジネス科	7	27	34
	教養福祉科	3	24	27
	合 計	60	108	168

進 学	学 科 名	私立大学		私立短大		教育訓練施設		専門・専修学校	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科	1	2	0	0	0	1	6	7
	農業機械科	2	0	0	0	1	0	8	1
	食品科学科	0	1	0	1	0	0	0	16
	総合ビジネス科	1	1	0	3	0	0	1	8
	教養福祉科	0	0	1	1	0	0	1	4
	合 計	4	4	1	5	1	1	16	36

就職・在家・その他	学 科 名	県 内		県 外		茨城県	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科	6	10	0	1	0	2
	農業機械科	17	0	1	0	2	0
	食品科学科	6	12	0	0	0	1
	総合ビジネス科	4	9	0	1	0	3
	教養福祉科	1	17	0	0	0	2
	合 計	34	48	1	2	2	8



(在家・その他5名)

就職者内訳	学 科 名	事 務		販 売		サービ ス		製 造	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
	生物生産科	0	0(1)	1	1	0	3(1)	5	8
	農業機械科	0	0	0	0	0	0	20	0
	食品科学科	0	1	0	3	0	0(1)	6	9
	総合ビジネス科	0	1	0	2	1	0(1)	3	10(1)
	教養福祉科	0	0	0	0	1	18	0	0
	合 計	0	2(1)	1	6	2	21(3)	34	27(1)

〔部活動紹介〕

弓道部 (部員一同)

私たち弓道部は、一昨年度まで部員数が男女共に三名の計六名という少ない人数でした。そのため先輩方は、人数を必要とする大会などは出場できず、悔しい思いをしていました。しかし、日々の練習を怠ることなく努力し、次第に部員数も増加し、現在では男子六名、女子十二名の計十八名の部になりました。人数の増加に伴い、練習も徐々に活発になり、放課後や休日など限られた時間ではありますが、内容の濃い練習を心掛け、大会で結果を残せるようになってきました。

私たちは部員の多くが初心者であり、弓道に関して知識や技術がほとんどありませんでした。しかし、顧問の有村先生を始め、先輩方、弓道経験のある同級生に熱心に指導してもらいながら、日々精進してきました。その甲斐もあり、昨年は全員が昇段審査を通り初段になり、今年二月の審査では式段に受かる人も出てきました。また、大会では決勝出場回数が増加し、真岡市長杯での優勝、国体選抜予選会への出場等と、今まではなかった結果に繋がってきました。

弓道を始めて、私たちは多くの事を学ぶことが出来ました。弓道は、他人との戦いではなく、自分との戦いであること、一つ一つの動作を大切にすることが大切、個々のように見えて相手を思いやる気配りが必要である事、そして礼儀を重んじる事等です。

私たちが弓道を始めたきっかけは軽い気持ちでしたが、今ではやって良かったと思っています。弓道は生涯続けていけるスポーツなので、高校生活の中だけでなく、卒業後も楽しみながら続けていきたいと思っています。

今後も弓道部をよろしくお願ひします。



〔部活動紹介〕

茶華道部 (部員一同)



茶道部の一年を通して私たちが茶道部は、顧問の村田先生と堀江先生をはじめ、外部講師として田代先生と金敷先生のご指導のもと、日々練習に取り組んでいます。毎週月曜日は外部講師の指導のもとおけいこを行い、火曜日には自主練習に励んでいます。部員は三年生二名、二年生十名の計十二名です。男子部員も三名おり、女子とは作法も異なるので間違えないように一つひとつ確認しながらお茶を点てています。初めに盆略点を学び、その後立札やそれぞれの季節のお点前を身に付けていきます。

本校の茶道部は「裏千家」という流派で、薄茶をよく泡立てるのが特徴です。八月九日に日光東照宮(晃陽苑)で行われた高文連茶華道部会中部地区交流会は、毎年栃木県の中部地区の高校茶道部が日ごろの練習の成果を発揮、意見交換を交わす場です。私たちが部長、四名が参加しましたが、流派が違うと作法も違っても刺激を受けたことに、茶席(立札)ではお運びとして練習成果を十分に発揮することができました。また、十一月一日に行われた北陵祭では、部員全員がそれぞれお点前、半東、お運び、水屋、受付に役割分担し、一丸となってお茶席をやり遂げることができました。お客さんや先生方にも喜んでいただき、私たちもとても嬉しかったです。

千利休の茶道の筆頭の心得に「一期一会」という言葉があります。こうして一年間活動していくと、季節の移り変わりや、その一瞬一瞬がとても大切に感じられてきます。私たちが茶道部もそのときの「出会い」を大切に今後も活動していきたいと思っています。

編集後記

本年度は不況風の中、政権が変わり、デフレ脱却を目指し、産業経済成長や教育改革等がかかげ、二パーセント物価上昇を目標に大型予算を組むとのこと。若者達が夢を抱けるよう期待したいところです。

北陵高の震災被害の修理の方も今年中には終わります。同窓会の皆様今後共宜しくお願ひ致します。

編集委員

- 錦 芳衛 広田茂十郎
 - 猪野 正子 水上 大嗣
 - 野原理恵子 松本 武隼
 - 川上 達典 小嶋 明
- *****
- 同窓会では会報の編集委員を募っています。是非あなたのご協力を願ひします。

